

### 1 自己評価及び第三者評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2890800226		
法人名	株式会社ファイブシーズヘルスケア		
事業所名	まんてん堂グループホームたるみ中道		
所在地	神戸市垂水区中道6-1-8		
自己評価作成日	令和4年12月1日	評価結果市町村受理日	令和5年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	認定NPO法人 コミュニティ・サポートセンター神戸(CS神戸)
所在地	神戸市東灘区住吉東町5-2-2 ビュータワー住吉館104
訪問調査日	令和4年12月8日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

法人全体の理念である「自分の親に受けさせたい介護サービス」「自分自身が受けたいと思える介護サービス」「今の子供たちに自信をもって継承してもらえる施設」という3つの理念を、日々意識しながら介護に取り組んでいる。  
 医療関係機関やご家族様とも連携をとって、ご入居者の方に安心して生活して頂ける支援を心がけている。新型コロナウイルス感染予防の為、ボランティアなどの訪問や地域交流も外出時の挨拶程度となり楽しい行事がほとんどできなかったが、ご入居者の方の下肢筋力低下予防に努め、新型コロナウイルス感染予防対策を行ったうえで、日常的に散歩をしたり、体操を取り入れたレクリエーションを積極的にやっている。

**【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

最寄りの駅から徒歩で10分弱の閑静な住宅街に立地している。感染防止の為にイベント参加やボランティア訪問等の交流行事を控えているが、自治会や地域住民との付き合いは続けている。感染対策をして日常的に近隣公園へ出かけている。交通量の少ない近辺の道路を散歩するなど外出の工夫をしている。また屋内では脚力低下防止のため階段の昇降をしたり、体操を入れたレクリエーションをしたり、訪問リハビリテーションも入る等、積極的に体力増強に力を入れている。感染状況の緩和時には、中止していた面会を予約制・15分間等の制限付きで再開している。入居者のスナップ写真と職員の便りで様子を伝える事業所新聞を不定期で発行して家族に喜ばれている。協力医療機関等と連携して看取り介護にも取り組んでおり、昨年一人の方が安らかな最期を迎えられた。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します(事業所記入)**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ中道

評価機関:CS神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念を常に意識し、加えてたるみ中道の理念を実践している。	パンフレットに記載している「自分の親に受けさせたい…」に始まる3箇条の法人理念は職員によく浸透している。4年前に職員から公募して決めた事業所独自のキャッチフレーズ「やる気・元気・なかみち」を玄関正面に掲げ、日々の介護にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため、積極的な交流はできていないが、地元自治会、ご近所の方との交流は可能な範囲で行っている。	コロナ禍以前はもちつきやフリマなどのイベントに参加したり、楽器演奏等の多彩なボランティアが訪れるなど地域との交流は深まっていた。今は感染防止のため直接的交流活動は控えているが、自治会や近隣住民との付き合い、触れ合いは続けている。	今後も地域の方々との繋がりを維持され、コロナが収束した将来には地域ケア会議等への参加などから事業所の特性を活かした地域貢献の活動へつなげていかれることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご入居者の方と散歩に出かける際は、積極的に挨拶し、可能な範囲で交流している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の感染予防のため、書面、電話、メール、LINEなどでご意見、ご要望をお聞きしている。ご遠方のご家族様からもご意見をいただくことも多くある。	運営推進会議は隔月に家族も5人位参加し、議長を家族が務めて開催していた。今は感染防止のため中止している。書面で運営状況を報告して回答用紙のFAXや電話・メールで意見・感想を頂き、議事録は会議メンバーと全家族に送っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターのご担当者の方と連携し、ご助言をいただいている。また、感染症対策については、保健センターの担当者の方と連携し、感染予防に努めている。	市とは事故報告や感染症対応等で適宜に連絡・相談を行っている。地域包括支援センターは運営推進会議の出席メンバーでもあり、各種の情報交換をすると共に空室情報の提供や入居相談の紹介等で日常的によく連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について施設内で定期的に研修を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修を年2回、身体拘束適正化検討委員会を3ヶ月ごとに開催している。玄関とユニットの入口は安全の為施錠しているが、出たい方には職員が付き添って出ている。センサーマットは家族の了承を得て使用し、定期的に必要性を見直している。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待が見過ごされることがないように、法人としての取り組みに加え、事業所として風通しのいい環境を作り、小さなことでも相談できる状況になっている。	「虐待の芽チェックリスト」も活用して年2回研修を行っている。不適切な言動があれば遠慮なく連絡や相談がなされ管理者が適切に指導、対処している。昨年全家族に了承を得て居室にもカメラを設置した。職員がストレスを自分でチェックする仕組みもある。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を受けておられるご入居者様が、各関係機関と連携し支援している。	成年後見人のついている入居者が3人いる。法人本部の支援も受けて現在成年後見制度の手続きが進行中の方も1人いる。後見人への対応により日々トレーニングを積むことに加えて研修を実施し、職員の制度への理解を深めていくようにしている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前に十分にご本人やご家族様と面談をし、できるだけ細かく説明を行っている。契約締結時には契約書はもちろん、他の承諾書など細かく説明し承諾書を取り交わしている。	契約時には重要な文書は全て読み上げ、最長で3時間位かけて説明している。最も多い最期までみてもらえるかとの質問には、看取りは法人の定めた指針に基づいて進めること、常時医療処置が必要になれば退去となること等を説明し納得頂いて契約している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者だけでなく、計画作成担当者、フロアリーダーからもご家族様へご入居者の方の近況報告などを積極的に伝えし、あわせてご意見、ご要望をお聞きしている。	家族の意見や要望は最初に個別のシートに記録し、入居後は来所時や電話・メール・書面などで伺っている。今年は入居者の暴言が怖いので病院受診の同席をしたくないという家族に、今は落ち着いていることを伝えて穏やかな受診同席を実現し感謝された。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティング、フロアミーティングや個別面談を実施し、意見を聞く機会を設けている。委員会を設定し、必要な行事ややってみたい活動やイベントなど職員の希望や相談が気軽にできるよう心がけている。	職員の意見はミーティングや面談、3つある委員会で運営に反映されている。今年は休みの日でも出勤して会議に出たいという職員の意見に基づいて会議のあり方を変え、全体ミーティング・フロアミーティングともに月1回とし出席者を増やすことが出来た。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	従業員評価制度を設けており、評価面談においては、管理者と職員が直接面談し、個人の良い点や改善点を伝えている。また定期的に従業員の意識調査を実施している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13			○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な研修は法人内外で参加し、情報を提供している。一度に全員が研修を受けることは困難なため、数回に分けて研修に参加し、検証しながら、スキルアップを目指している。		
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	WEBミーティングなどで他施設との交流を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約締結前に家族様や関係機関からの情報を出来るだけ多く収集することを心がけている。ご本人の訴えや表情等を汲み取り、各勤務帯による申し送りを十分行い、ご本人との関係づくりに努めている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約締結前に行うご家族からのヒアリングおよび面談を通じて関係づくりに努めている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時にご本人やご家族からできるだけ情報をいただき、グループホーム以外のサービスも含め、ご本人にとって適したサービスの説明を行っている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が主体となれる支援を心がけ、ご本人の能力に応じて、日常的な家事や得意とされることを活用した役割を持っていただくようにしている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の感染予防のため行事などにご参加いただくことが困難となっているが、定期的にご連絡を入れることにより関係構築に努めている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の感染予防のため外出していただく機会が減少している。電話、手紙を通じていい関係が継続出来るよう支援している。	面会は中止の期間が長いですが、感染状況の緩和時には完全予約制・相談室で2人まで・15分間という制限付きで再開している。入居者のスナップ写真と職員の便りで様子を伝える「中道号！GO△△様〇月度ご様子」という事業所新聞を不定期で発行している。	入居者の様子を伝える事業所新聞は家族に好評で、定期的な発行を望む声があるようです。人手がかかる所を工夫して、定期的な発行を実現されることを期待します。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価		
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の個性や性格を把握し、ご入居者様同士の関係が築けるよう支援している。時にはテーブル席を代えたり、レクリエーションでカラオケやゲームをしコミュニケーションをとっている。			
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了後に、お知り合いの方のご入居のご相談のお話をいただくなど、よりよい関係が継続している。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>							
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いに寄り添える暮らしを目指し、常にご希望をお伺いできるよう努めている。	人権擁護研修により入居者は家族である事、人生の先輩である事を意識しながら接している。契約時に家族、本人から要望、希望を、入居前に利用していた介護サービス提供者からは思い等を聞き、日常生活での表情、行動からも思いを汲み取っている。		
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前の面談において、現在の生活状況や、生活歴を詳しくお聞きし、馴染みの関係、生活環境等の把握に努めている。またご入居後も生活歴を聞きだせるようご家族やご友人とコミュニケーションを図っている。			
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の様子、体調の変化を観察、記録している。申し送りによって職員間で情報の共有をしている。また、医師、看護師とも情報の共有ができるよう連携をとっている。			
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	予め関係者からの情報を収集し、ケアカンファレンスを開催し、課題とケアのあり方について、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアカンファレンス前に介護職、医師、訪問看護師から課題を解決する意見、アイデアを収集し、サービス計画作成担当者がそれらを反映し、入居者重視で介護計画を作成している。課題の手がかりを掴もうと昼夜問わず全員で取り組んでいる。		
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートに日々の様子や気づきを記録し、出勤時に確認するようにしている。様子の変化や気づきは計画作成担当者に報告し、以後のケアの内容を検討するよう、情報の共有を図っている。			

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診で対応が難しい場合の専門科の受診は、ご家族と相談し送迎や付き添いを行っている。個別にご本人に必要な物品があれば、一緒に外出し立替購入をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所の方から声かけをいただき、近隣行事への参加をしていたが、コロナ禍により参加出来てない。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医については、事業所の提携医療機関のほか、これまでのかかりつけ医を利用して頂くことも可ある。ご本人の希望する医療機関の受診ができるよう支援している。	入居者、家族が希望する受診先をかかりつけ医としているが入居後は全員が協力医療機関をかかりつけ医としている。内科医は月に2回、訪問看護師は月に2回、ユニット単位の往診があり、歯科医、眼科、皮膚科は個人的な往診がある。専門医への受診支援もしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師は週1回事業所を訪問し、ご入居者の健康管理、健康チェックを行っている。また、報告、連絡、相談がスムーズにできるようにタイムリーに電話連絡を行い、連携をとっている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院内の地域連携室との情報交換や相談を通して、ご本人の状態の把握に努めている。また、退院前に病院関係者とカンファレンスを行うとともに、それに基づいたミーティングを施設職員間で実施し、スムーズな退院支援を行っている。	入院時は入居者に係る情報提供をして、入院中は病院、家族から入居者の様子把握に努めている。早期に退院出来るように病院と連携し、家族と情報交換をして、スムーズに元の生活に戻れるよう職員間で情報の共有をしている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応に係る指針」をもとに事業所としてできないことを段階的に説明し、ご家族、往診医や訪問看護師との連携をとりながら、終末期の方向性や選択を支援している。職員や家族に訪問看護師よりターミナル研修を行い望む終末期を迎えられるよう取り組んでいる。	契約時に「重度化した場合の対応に係る指針」で出来る事、出来ない事を丁寧に説明し理解をしてもらっている。重度化した時は主治医、訪問看護師と連携し、改めて説明をして、望む方向で支援をしている。ターミナル研修も行い、昨年一人の方を看取った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に、かかりつけ医及び訪問看護に連絡を入れ相談や臨時往診などの対応できる体制ができている。研修も行い、緊急時対応のマニュアルも掲示している。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時に備えるため、避難訓練を年に2回実施している。新型コロナウイルス感染拡大の際には、法人、エリア担当を中心にサポートできる環境が整備されている。	年2回夜間、昼間の想定で火災時の通報、避難、消火訓練をしている。通報装置の使用方法の体験もしている。非常食については現在準備中であるが衛生材料は3日分備蓄している。エアコン設定温度を上げて窓を開け換気に努めている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居の方へは、人生の大先輩であることを自覚するよう心がけている。また、言葉の乱れや声かけについても職員同士が指摘し合える環境づくりに努めている。	入職時及び毎年の高齢者虐待防止の重ねての研修により、人格の尊重、人権意識の徹底をしている。「ちゃん」付けは使わず基本「さん」付けにしている。同姓の方が複数の場合には下の名前で呼び、その場合にはケアプランに記載する事としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	要望やニーズを把握するために、積極的にコミュニケーションを図っている。日常動作であったり一緒に外出する中で、残存能力が引き出せることを意識し、ケアにあたっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の「今どうしたいか」の意向を尊重し、可能な限りご本人のペースに合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は季節感に合わせたものをご用意頂くようご家族に依頼している。外出する際、ご入居の方にはおしゃれ着で出かけて頂くよう支援している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けを一緒に行っている。食べ物にアレルギーがある場合は代替メニューをご用意している。食事レクリエーションで希望のものや季節を感じていただける献立にし、できる限り入居者さま主導になって調理する日を設けている。	食事の準備、片付けは出来る入居者がしている。各地の名物料理「郷土のおばんざい」を提供している。食事前には説明をして、同じ出身地の入居者は懐かしく楽しんでいる。季節を感じるメニュー、リクエストに応じた食事もしている。	おやつにお餅があったり、リクエストの良くある食事もあったり、積極的に食の楽しみに取り組んでいます。人手が戻ればコロナ禍工夫をして行事食の再開に期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居面談時の食事アセスメントで、食生活の習慣を把握している。また、食事量、水分量はそのつど記録し、少ない場合は十分な量の摂取を促すようにしている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に口腔ケアを実施している。また個別に必要なに応じて歯科往診を実施している。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中、夜間のご様子を観察した上で、個別の排泄のタイミングと合わせてトイレ誘導を行っている。	紙オムツ、パットを使っている方を職員全員で共有して、トイレでの排泄をさりげなく誘導をして支援している。体調の変化によっては安全の為に2人介助をしている。夜間は良好な睡眠ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩するなど運動を出来る限り勧めている。また、2～3日以上排便がない場合は、状況によりかかりつけ医の指示で下剤を使用してコントロールしている。水分不足の場合は、ご本人の好みに合わせて提供するよう努めている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	リフトで浴槽につかれる方が増えている。湯船にゆったりとつかれることで、体が温まり、よりリラックスしていただいている。入浴のタイミングは可能な限り本人に合わせてお声かけをしている。	週2回、午前中に入浴をする様にしている。個々の生活に合わせて、ゆっくりお湯に浸かり楽しんでもらっている。拒む方には時間、日を変え、声掛けを工夫したり、入居者の生活の流れで入浴へ導いたりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は設けていないが、入居面談時の睡眠アセスメントで、習慣を把握し、個々に応じた支援をしている。夜間の排泄介助の際にすぐに目を覚まされてしまう方は、パットの種類を変え、安眠を妨げずに休んでいただけるよう、対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を個人別に分けた上で1冊にまとめ、薬の性質についてすぐに確認できる環境にあり、日々確認に努めている。また不明な点や飲み込みが困難であれば、提携薬局に気軽に相談が出来る関係にある。形状を変えてくれるなど、柔軟に対応してくれる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の得意なことを理解し、役割を担っていただいている。また個別の趣味を把握し、趣味に取り組んで頂けるような環境を作っている。		



自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、積極的な外出はできないが、施設近辺の住宅街を散歩していただいている。	人混みの中、飲食店には行けませんが、近隣の公園へ花を見に出かけたり、交通量の少ない建物近辺の道路を散歩している。気分転換の為に屋内玄関前で日光浴をしたり、屋内階段を利用した昇降で脚力低下防止に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出や買い物へ出かける場合は基本的には立替払いとしている。ご希望があれば、お金の直接的なやり取りをご本人にもしていただけるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年ご本人からご家族への年賀状を書いていた方もおられる。電話のやり取りについては要望に応じてかけたり取り次いだり支援している。携帯を持ちのご入居者の方もおられ、直接家族と連絡されている方もおられる。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気候のいい季節には、庭、玄関前で全員で日光浴をする。温湿度計を設置し、快適に過ごせるよう空調に配慮する。フロアの壁に折は、ご利用者と一緒に作ったものを貼り付けたり季節に応じて、壁の飾りを変えたり、飾りを置くなどし四季を感じていただける工夫をしている。	壁には共同で作った当該年の干支の可愛い虎の貼り絵が掲示され、クリスマスイメージの切り絵があちらこちらに貼られている。換気の為に天窓を開放しているが、室温管理、湿度管理をしっかりして、清掃も行き届き快適な空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの一角にソファを設置し、リビングの中心から少し離れた所で自由にお過ごし頂けるようになっている。また、ご入居者の方同士でお部屋の行き来もある。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏壇を置かれている。また、温湿度計を設置して、快適な空間作りに努めている。	エアコンと大きなクローゼットが設置されている。馴染のある整理筆筒、仏具、テーブル等が置かれている。清掃も行き届き、清潔感のある居心地良い居室である。シーツ交換は週に1回、状態を見て随時でもしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	下肢筋力の低下防止のため、スタッフの見守りのもと、階段昇降の練習をされる方もおられる。		